

会 議 要 旨

会 議 名	平成29年度第4回 館山市コーラル会議
開 催 日	平成30年2月15日（木）午前10時～午前11時20分
開 催 場 所	館山市役所 本館2階会議室
出 席 者	[委員(敬称略 50音順)]合計11名(欠席 2名) 石井 敏宏 石渡 秀嗣 清本 智美 鈴木 ひとみ 鈴木 容子 滝口 力 土岐 明美 羽山 敏雄 室 厚美 本橋 朋子 盛島 岳 [市]総合政策部企画課 網城課長、長谷川政策係長、大賀主任主事
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	0名(定員10名)
会 議 内 容 議事進行： 土岐会長	<p>1. 開会</p> <p>2. 企画課長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 第4期館山市男女共同参画推進プランの素案に関する討議</p> <p>第4期館山市男女共同参画推進プラン(素案)の内容について討議を行った。</p> <p>○委員から出た意見等</p> <p>【プランがカバーしている分野の範囲について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範囲が広すぎる感は確かにある。 ・男女共同参画は様々な分野に関係するため、範囲が広がるのは仕方ない。 <p>【事業内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容にもっと具体性が必要である。 ・たとえば、「地域活動の推進」とあるが、具体的に自治会女性役員を増やす等の策を盛り込むことが必要である。 ・せっかく市民意識調査を行ったのに、その結果が落とし込まれていない感がある。 ・具体的な取組内容については、毎年度行う進行管理等の中で見ていけば良いのではないか。 ・プランの内容をどうやって現実に落とし込んでいくか、伝えていくかが大切。行政として大変なところは企業向けの周知だと思う。行政が企業に対し働きかけをしやすい仕掛けづくりが必要だと感じている。また、行政側でも子育て支援や女性活躍等に取り組んでいる市内企業(「くるみん」認定企業など)を広報等で紹介し、周知を図られたい。

【プラン素案に関する具体的な意見等について】

- ・プランの将来像について、初めて見る人は何故その将来像なのかが分からず、そこに至った背景が理解できないと思うので、補足説明を入れるべき。
- ・「家事・育児に参画する男性の割合」を指標に入れてみてはどうか。
- 個人の領域にまで踏み込むのはどうか。また、家族構成によっても全く異なると思う。数値が入るよりも具体的なアクションプランが必要。コーラル会議の委員や市から、公民館講座等の場を捉えて周知していくことが大事。
- ・「幼児教育・保育の充実」に特定の地区名が入っているが、他の地区でもこの事業に取り組むはずで、誤解を招く恐れがあるため、削除した方が良い。
- ・「子育て家庭への支援の充実」の内容を見ると、子ども医療費給付事業の継続がうたわれているが、さらに充実させるような、意欲的な感じにできないか。
- ・指標に、防災士や女性消防団員、ボランティアの女性参画割合等を入れてみてはどうか。

【市が所管する審議会や市役所における女性登用推進について】

- ・指標に「管理・監督職の女性割合」が入っているが、課長級以上の割合を目標として掲げるべき。課長級以上の女性割合を20%以上等としても良いのではないか。
- ・現在、部長級の女性職員はゼロ、課長級の女性職員が一人しかいない状況。
- ・男女共同参画を推進し、男女平等を実現しやすいのは役所である。まず行政が範を示し、それに企業がついてくる形になると思うので、市役所における部課長クラスの女性登用が肝心。
- ・審議会の女性委員割合については、「トータルで30%以上」を指標に掲げているが、30%以上となっているものもそれなりにあるので、「30%以上の審議会を〇個以上」といった指標に変更してはどうか。

【世界における日本の男女共同参画について】

- ・世界経済フォーラムが毎年公表している「ジェンダー・ギャップ・インデックス（男女格差指数）」の国別ランキングにおいて、日本は144カ国中114位であり、順位が年々低下している。項目別のランキングを見ると「保健・衛生」では1位、「教育」でも中位なのに対し、「経済」は113位、「政治」では123位となっており、女性リーダーが諸外国に比べて少ない現状がうかがえる。身近なところでいえば、審議会における女性会長の割合を増やすべきと考える。
- ・幸福度調査も世界各国を対象に行われているが、北欧諸国の順位が高い傾向で、日本は51位である。日本は特に社会的自由度が低いため、ここを改善すれば生活がある程度保障され、女性は家から解放される。男性も仕事から解放され、自由なライフスタイルを選べるようになる。国として福祉国家、欧米型ライフスタイルを追及する必要があると考える。
- ・労働生産性について、日本は世界の先進国の中で最低レベルである。幸福度指数が高い北欧諸国などは、それに対し労働生産性が高くなっている。
- ・議論はあると思うが、周囲から「ギャップ（たが）」をはめて世の中を変えていくことも必要だと考える。

【その他】

- ・東京都では、ワーク・ライフ・バランスを改め「ライフ・ワーク・バランス」としている。館山市もこれにならい、「ライフ・ワーク・バランス」にしてほしい。
- ・職場や経営者にある男性中心の意識を改革し、女性が声を上げられる環境づくりを行うことが大切。女性の中でも、特に年長者（先輩）は「自分たちのころはそうではなかった」と否定的な見解を示す人もいるが、今の時代はこうであるということをしっかり周知していく必要がある。

4. その他

【事務局から】

○今後のスケジュールについて

- ・2月末までにはパブリックコメントをスタートさせ、3月中旬まで市民から意見を募集する。その後、原案を作成し、3月末に会長又は副会長から市長に対し答申を行う予定である。

○千葉県男女共同参画推進員の委嘱替え

- ・今年度末で、推進員の任期が終了し、新たな推進員を募集することとなる。推進員就任を希望される委員や、推薦したい人がいる場合は、2月末までに事務局までご連絡願いたい。

5. 閉会